

## ボランティア養成事業

# ボランティア養成セミナー

### 1 ねらい

・独立行政法人国立青少年教育振興機構のボランティアとして一定レベルの資質を確保するとともに、青少年教育施設におけるボランティア活動を推進し、その活動機会の拡充を図るため、法人ボランティアの養成を行う。

### 2 期日

令和6年6月1日（土）～2日（日） 【1泊2日】

### 3 対象

15歳以上（高校生以上）

### 4 募集人数 / 応募人数 / 参加人数

60名程度 / 36名 / 36名

### 5 講師・スタッフ

富山国際大学 教授 村上 満 氏  
国立能登青少年交流の家 所長 北見 靖直 氏  
日本赤十字社 救急法指導員 高地 修 氏  
国立立山青少年自然の家 職員 4名  
法人ボランティア 5名



### 6 後援・協力

後援：富山県教育委員会、新潟県教育委員会、北日本新聞社  
協力：富山大学、富山国際大学

### 7 日程

|             | 午前                                                            | 午後                                                                     | 夜    |
|-------------|---------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|------|
| 6月1日<br>(土) | ○開講式<br>○演習<br>「自然体験活動の技術」<br>アイスブレイク<br>○講義<br>「ボランティア活動の意義」 | ○講義・演習<br>「普通救命講習」<br>○講義・演習<br>「安全管理」<br>○演習<br>「自然体験活動」<br>野外炊事（カレー） | ○交流会 |
| 6月2日<br>(日) | ○講義<br>「青少年教育」<br>○講義<br>「青少年教育施設の現状と運営」                      | ○講義<br>「青少年教育施設における<br>ボランティア活動」<br>○閉講式                               |      |

## 8 参加者からの事後アンケート

- ・ボランティアをするにあたって気をつけることや応急手当の仕方、子供への言葉遣い、声かけなど沢山役立つ知識を学ぶことが出来てとても良かった。
- ・参加するまでは不安だったけど、プログラムやスタッフとの交流が楽しかった。これから事業にたくさん参加していきたい。
- ・これからボランティアとして関わっていく新しい仲間と出会えたことが、凄く嬉しかったし刺激になった。

## 9 成果

- ・昨年度に引き続き、大学での対面の広報を行うことができた。講義後の休み時間を活用し、参加を迷っている学生や全体での説明を理解できていない学生に直接声をかけることができたので効果的であった。
- ・つながりをもったプログラムを構成することができた。特に安全管理の講義で行ったKYTシートの内容が、直後の野外炊事に直結しており、その後の活動を安全に行うことができた。
- ・先輩ボランティアが参加者の中に意図的に入ることで、先輩とのつながりをつくることができた。

## 10 今後の課題

- ・今年度は開催日の設定に苦労した。毎年参加者の大半が大学生であるが、年度当初の開催日が近隣大学の土曜授業と重なってしまったため、変更を余儀なくされた。大学生の法人ボランティアから早めに情報収集するなどの手立てが必要である。
- ・高校生の参加者も増えてきているので、本施設の事業一覧の他に「立少ボランティアの会」としての年間計画を配付するなどして、ボランティア登録後に活動支援へスムーズに参加できるような工夫が必要である。

